文部科学省 地(知)の拠点 | ふるさといわて創造プロジェクト

ふるさといわて創造レター

FURUSATO IWATE SOZO LETTER

2017. 03 第6号

［発行者］ふるさといわて創造協議会事務局　岩手大学COC推進室　Tel. 019-621-6053　E-mail cocplus@iwate-u.ac.jp

いわてキボウスター開拓塾最終報告会を開催しました

2月17日、盛岡市の岩手銀行赤レンガ館において起業家人材育成プロジェクト「いわてキボウスター開拓塾」の最終報告会を開催しました。開拓塾の学生たちはまちづくり、食、観光、商品開発などをテーマに5つのチームに分かれ、地域の起業家・事業家（地域リーダー）とともに開講から4ヶ月にわたり、現場での実践を中心に地域課題解決プランに取り組んできました。当日は約120人の参加者を前に、各チームがこれまでの活動成果について熱のこもったプレゼンテーションを繰り広げました。成果発表終了後は、会場内に設けたブースにて各チームによる自分たちのプロジェクトの説明や試作品などの展示が行われました。

開拓塾の活動で得た体験は、地域の未来を担う学生にとってこれからの原動力となることと思います。第一期塾生の今後の成長を期待します。

参加学生の声

町田彩花
岩手大学
農学部2年生

私は今回の活動で、チームの学生リーダーを任せていただきました。この半年間を振り返ってみた時一番強く思うのは、チームの力というものの大きさでした。各々が起業家人材育成道場という仮名に抱いた想いを持ちより、見せ合った当初、私達は己の力を高めようとする意欲に満ちた学生の集団であったと思います。しかし、テーマごとにグループが形成され、見せ合ったそれを各々が手に取り合い、論じ合い始めてから、私達の想いや能力は一人ひとりだけのものではなくなりました。一人ひとりのそれをいかに使うか、いかに生かすかを考えはじめて、グループはチームになっていきました。つまり私達はこの半年間で、何かをしたいという意識を持った人材の集団から、岩手を支えるチームへと変貌しました。

半年間の活動を終えて、今私達はあらためて、これから一人ひとりがどうやって岩手を支えていくのかを考えることを課されているように思います。今回の経験を生かして、頑張っていきます。応援をよろしくお願いします。

事業所見学バスツアーを実施しました

COC+事業として2月に行った2つの事業所見学バスツアーを紹介します。

技術に焦点を当てた企業見学会

2月13日、15日、17日の3回にわたり、県内の自動車産業関連企業や半導体関連企業等において岩手大学の理系学生を対象とした「技術に焦点を当てた企業見学会」を実施しました。延べ66人の学生が参加したこの見学会では、「自分たちが普段勉強していることが現場でどのように使われているか知ることで研究への理解が深まった」、「もっと良いものを作りたいという向上心、チャレンジする心が大切であると感じた」等の感想が寄せられており、研究への興味喚起や仕事に対する姿勢について考えるきっかけとなったことがうかがえます。

二戸市事業所見学バスツアー

2月24日、本事業参加校の学生を対象とした二戸市事業所見学バスツアーを開催しました。当日は岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学さらに盛岡カレッジオブビジネスの学生32人が参加し、㈱小松製菓新工場2doorでのオリエンテーション、トークセッションのあと、二戸市役所、㈱南部美人、㈱阿部繁孝商店を訪問しました。学生たちは職場見学や従業員の方との意見交換などを通して、二戸地域や地元事業所に対する理解を深めると共に、二戸で暮らすということについても考える機会となりました。

高知地域と徳島地域のCOC+の取組を調査しました

ふるさといわて創造協議会の「教育プログラム開発部会」が、今年1月20日から21日にかけて実施した高知地域と徳島地域の調査結果を報告します。

高知地域

大学生協食堂にあった「地方創生推進士」のポスター

「まち・ひと・しごと創生　高知イノベーションシステム」は、高知大学が代表校となり、高知県立大、高知工科大、高知高専、高知学園短大の5高等教育機関と高知県、県内産業経済団体が連携して取組む地方創生事業です。特に注目できる取組としてCOC+システム認証制度があり、地方創生推進士育成科目（正課・準正課）を必要単位修得することで「地方創生推進士」の称号を得ることができます。高知大訪問により、地方創生推進士育成科目の設定・開講、資格審査の方法など、この制度の企画・運営について具体的に知ることができました。

徳島地域

「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」は、徳島大学が代表校となり、四国大、同大短大部、徳島文理大、徳島工業短大、阿南高専の6高等教育機関と徳島県、地元企業、NPO等が連携して取組む地方創生事業です。特に注目できる取組として、「寺子屋式インターンシップ」と呼ばれる実践力養成型インターンシップがあり、徳島大訪問の1月21日が同インターンシップの最終報告会当日でした。同インターンシップは、企業が抱える課題を企業と学生が協働して解決を目指す実践型のもので、報告会は同インターンシップ受入れを検討している企業・団体や、来年度の同インターンシップ参加希望学生を対象として開催され、7つの企業・団体で35名のインターン生が約半年間取組んだ成果について、熱のこもった発表が行われました。徳島大COC+関係者と懇談し、同インターンシップが来年度から単位化されるなど、インターンシップと学内カリキュラムとの関係等について知ることができました。

寺子屋式インターンシップ最終報告会の様子

陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム2017を開催しました

岩手大学は、2017年4月に立教大学と共同で、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市協力の下、移転した中学校の空き校舎を活用した「陸前高田グローバルキャンパス」を陸前高田市米崎町に開設します。そのプレイベントとして、震災後にさまざまな大学が陸前高田市において行ってきた活動を大学関係者同士、そして市民の方々と共有し、相互に交流が生まれることを目的とした「陸前高田グローバルキャンパス　大学シンポジウム2017」（共催：立教大学）を1月21日に陸前高田市コミュニティホールで行いました。会場には、大学関係者のほか一般市民の方々など2日間で約350名が参加しました。

当日は戸羽太陸前高田市長による祝辞、岩渕明岩手大学長による挨拶に続き、国内外17大学の学生・研究者による取組発表が行われ、陸前高田市での学生によるボランティア活動のほか、住民の健康・生活に関する研究、コミュニティ再生、なりわい再生に関する研究、陸前高田市での取組を通じた学生教育プログラムなど、様々な取組が報告されました。口頭発表のほか、ポスターセッションも行われ、お互いの取組について情報交換する姿が多数見受けられました。また、岩手大学人文社会科学部五味教授から、本キャンパスの概要、実施されるプログラム、施設利用方法等について市民、大学関係者への説明を行いました。市民からは、展開する事業等への要望が多く寄せられ、期待の高さがうかがわれました。

祝辞を述べる戸羽陸前高田市長

ポスターセッションの様子

PDCA体制の確立について

ふるさといわて創造プロジェクトは、平成27年10月の文部科学省採択を受けて翌28年2月にふるさといわて創造協議会（会長：岩渕明岩手大学長、35機関参加）が設立されました。事業の具体化に向けて協議会内に教育プログラム開発部会（部会長：丸山仁岩手大学理事・副学長）とふるさといわて創造部会（部会長：小野寺純治ふるさといわて創造プロジェクト推進コーディネーター）を設置し、さらに、ふるさといわて創造部会には地域定着ワーキング（座長：竹野健夫岩手県立大学教授）と雇用創出ワーキング（座長：堀川三好岩手県立大学准教授）を設置して活発な議論を展開してきました。両部会はこれまで各6回程の会議を開催し、いわて創造人材育成のための取組や岩手県内定着、雇用創出に向けた取組を進めております。

事業を開始して一年半近くが経過したことから、28年度内にこれまでの取組の取りまとめと自己評価を実施し、さらに29年度早期に外部評価を行うなどの取組を通じてその後の事業展開をより有効なものへと発展させていくためのPDCAを回すこととしました。

外部評価委員には、秋保裕子さん（一般社団法人RCF）、遠藤憲子さん（経済産業省東北経済産業局）、大森昭生さん（共愛学園前橋国際大学）、岡野貞彦さん（公益社団法人経済同友会）、曽我亨さん（弘前大学）の5名を予定しております。評価結果については、来年度の全体会で報告するほか、本レターなどを通じて会員の皆様にお知らせいたします。